

「ふるさと新潟サロン feat. 江南区」の実施報告について

1 実施概要

- 日 時：11月24日(金) 午後5時～9時
- 会 場：横浜市スポーツ医科学センター中研修室、日産スタジアム
- 参加者：新潟市出身で県外在住の学生 7名
(うち大学生 6名、大学院生 1名) ※申込 13名
- 内 容：第1部 新潟で暮らす・働くことに関する座談会
第2部 サッカー観戦(横浜F・マリノス 対 アルビレックス新潟)

2 当日の様子

- 参加者は、先輩Uターン者による経験談や新潟市で暮らすメリット・デメリットを聞いたり、大学卒業後の働き方や進路選択について同郷の仲間たちと語り合ったりすることで、地元で暮らすことについて考えを巡らせる様子がみられた。
- サッカー観戦では、初対面の参加者同士が一体となって盛り上がり、親睦を深めていた。



3 アンケート結果

回答数 7件

Q1. 「ふるさと新潟サロン」の満足度についてお選びください

- ・とても満足 6件
- ・満足 1件

Q2. Q1の回答を選択した理由を教えてください

- ・非常に楽しかったです。
- ・就活以外で社会人の方々と色々喋ることができた。
- ・初めて参加したのですがとても優しく受け入れてもらえました！
- ・新潟で働いている人のお話をきいて、どこで就職するか考えるいい機会になりました。
- ・先輩の話がとても分かりやすくて今後の参考になった
- ・新潟の方の話聞くことはあまりないので色々聞いてよかったです。
- ・新潟市で社会人をしている方の生の声を聞けたから。

Q3. 「ふるさと新潟サロン」を何で知りましたか？（複数選択可）

- ・ふるさと江南区宅配便 同封チラシ 1件
- ・ダイレクトメール(はがき) 1件
- ・にいがた鮭プロジェクト ホームページ 2件
- ・にいがた鮭プロジェクト メールマガジン 2件
- ・その他 3件 …友人から

Q4. 「ふるさと新潟サロン」に参加した理由は何ですか？（複数選択可）

- ・同郷の仲間づくりをしたかったから 3件
- ・同年代の仲間の考えや意見を聞きたかったから 3件
- ・新潟市で暮らす先輩の話を知りたかったから 4件
- ・新潟市内の就職状況について知りたかったから 2件
- ・お土産に興味があったから 4件
- ・サッカーの試合を観戦したかったから 6件
- ・その他 1件 …友人からの紹介

Q5. この取組を通じて新潟市の暮らしに興味を持ちましたか？

Q6. (選んだ人のみ) 「あまり興味を持たなかった」「興味を持たなかった」

その理由がありましたら教えてください

- ・興味を持った 6件
- ・やや興味を持った 1件

Q7. 将来は地元（新潟市）に戻りたいと思いますか？（複数選択可）

Q8. 上記回答を選んだ理由がありましたら教えてください

○近い将来戻りたい（就職など） 1件

○いつかは戻りたい（結婚や転職など） 5件

- ・新潟は人があまり多くなくて過ごしやすい
- ・新潟で自分のやってみたいことができるかもしれないって思ったから。

○未定だ 1件

- ・今は仕事は何をしたいかしか考えていないので、今のところ新潟外の地方を考えている感じだけど、地元に戻るのもいいなと思った。

Q9. 江南区魅力発信プロジェクト実行委員会では、「ふるさと新潟サロン」や「ふるさと江南区宅配便」のほか、県外で頑張るみなさんが地元の魅力を再発見できるような企画を実施します！来年度以降も、新潟市の魅力発信・再発見に繋がるイベントがあったら参加したいですか？今後の活動で参加のご案内を差し上げる場合があります

- ・参加したい 5件
- ・やや参加したい 2件

Q10. 今後、「こんな企画をやってほしい」「こんなイベントなら参加したい」など、みなさんの素敵なアイデアをぜひお聞かせください

- ・今回のように新潟出身の人とお話できる機会があったら楽しいな、と思います。

Q11. にいがた鮭プロジェクトでは、若者の成長を応援し、魅力ある新潟をつくるため、様々な企画を行っています！本プロジェクトの企画・運営に興味がありますか？今後の活動で参加のご案内を差し上げる場合があります

- ・取材 2件
- ・イベント等の企画・運営 2件
- ・広報 0件
- ・まだわからない 5件
- ・興味がない 0件

4 来年度の方向性について

- 参加者より「先輩Uターン者の話が参考になった」という声が多数あり、座談会が将来について考えるきっかけになったことが伺える。また、ほとんどの参加者がサッカー観戦を理由に申し込んでいたことから、同郷の仲間と楽しみながら親睦を深められる企画であることに意味があったと考えられる。
 - ⇒サッカーに限らず、同郷の仲間と楽しみながら交流できるような企画を引き続き検討する。また、参加者が地元で就職する自身の姿を想像し、Uターンしたいと思えるようなイベントを、Uターン経験者の協力も得ながら実施していきたい。

- 申込開始時は20名程度の参加を予定していたが、実際の参加は7名であり、県外在住で市内出身の学生への広報手段に課題が残った。
 - ⇒広報については、首都圏在住の学生と太いパイプを持つ「新潟日報社 にいがた鮭プロジェクト」と協力して実施していきたい。また、参加の対象年齢を引き上げることで、移住や転職でのUターンに興味がある人を取り込むことも有効であると考えられる。移住相談窓口でのチラシ設置やホームページでの広報など、幅広いプラットフォームでの広報を検討していきたい。